

# 熊本赤十字病院 事務系職員 募集

～あなたの「総合力」を求めています～



## ～From Kumamoto to the World～

トップレベルの医療を“日赤発祥の地”熊本から世界へ

熊本赤十字病院は「人道・博愛・奉仕の実践」を基本理念に掲げ、1,550人の職員が一つになり、最先端の医療を提供することで、熊本の急性期医療を永きに亘り牽引し続けています。

当院では昭和55年に県内初の救命救急センターとして承認されて以来、39年に亘り熊本の救急医療をリードしてきました。平成24年には熊本県ドクターヘリの基地病院として運用を開始するとともに15歳以下の小児重症患者の

ための「こども医療センター」を併設した「総合救命救急センター」を開設しました。これにより、遠方の患者さんや、県内では対応困難であった小さなこどもの命を救うことが可能となり、これまで以上に幅広い領域で患者さんを受け入れています。日々、良質な医療を提供することに加え、このような新たな取り組みを行うことで、地域の活性化に貢献することも当院の重要な役割であると考えています。

医療は常に進化し続けています。それは病院へのニーズも日々変化することを意味します。常に新しいことを要求される医療業界において、その要求に素早く柔軟に対応するためには、土台となる安定した経営が必要となります。当院は、全国でもトップクラスの安定した経営を続けており、今後もそれを維持していくための力やノウハウを積み重ねていく必要があります。医師や看護師が診療に専念でき、患者さんが安心して診療を受けることが出来る病院を作るには事務系職員の働きが非常に重要なものとなります。

熊本の医療の中核を担う熊本赤十字病院を、将来、リードする人材を私たちは必要としています。

**様々な部署が協力しあって当院の事務部門を創りあげています。**

- ◆ 人事課 労務管理、給与、教育研修、福利厚生、職員の採用・退職等(人事管理)
- ◆ 総務課 病院運営、情報の総括的管理、他部門や他施設との連絡調整、病院の施設管理
- ◆ 会計課 収入・支出、予算・決算の管理
- ◆ 外来業務課 外来窓口業務(外来・入院患者の受付や対応)、外来患者の診療費算定、保険者への診療費請求など
- ◆ 入院業務課 入退院の手続き、DPC分析・請求、未収金管理
- ◆ 企画開発課 病院の運営戦略など総合的な企画・立案、病院の広報活動、コンピューターシステムの管理
- ◆ 診療支援課 診療情報の管理・統計、医師支援業務(医師に代わっての文書作成など)
- ◆ 教育研修推進課 職員の研修企画・運営・管理、医師臨床研修
- ◆ 購入管理課 院内で使用する物品(医療機器、医薬品、診療材料、庁用品など)の購入および管理、物品の供給
- ◆ 医療社会事業課 医療相談などのソーシャルワーク業務
- ◆ 地域医療推進課 地域の医療機関との連携、紹介(逆紹介)患者の管理
- ◆ 救急業務課 救命救急センターやドクターヘリの運用業務、国内災害救援の備品管理、救護訓練
- ◆ 国際医療救援部 海外救援に関する事務、派遣時の調整、国際活動に関する広報
- ◆ その他の部署・・・ 器材管理課、社会課

## 災害救護活動 ～常にトップレベルの救護活動を展開～

日本赤十字社の前身である博愛社の創設の契機は、熊本の田原坂で繰り広げられた西南戦争の際の戦傷者に対する救護活動でした。このことから、熊本は“日赤発祥の地”と言われています。私たちは常にそのことを意識し、災害時にはトップレベルの救護活動を展開できるよう、日頃から積極的に救護訓練等に取り組んでいます。

平成23年3月11日の東日本大震災では、発災6時間後には初動班を派遣し40時間の道のりを経て宮城県石巻市へ駆けつけました。東日本大震災で当院が派遣した救護要員は延べ231名に上り、そのうち管理要員となる事務職員の派遣者数は全体の3分の1を占める、84名になります。また、人員だけでなく、日本に1台しかない特殊救護車両を派遣するとともに、救援資機材や救援物資等70トン以上を被災地に輸送するなど、5ヶ月間に亘り被災者の救護・支援活動を行いました。(詳細は当院HP(<http://www.kumamoto-med.jrc.or.jp/newssys/6831>)をご参照ください。)

平成28年4月の熊本地震では、発災直後から診療体制を災害モードに切り換え、院内での多数の救急患者の受入れを行いました。また、被災地に最も近い基幹災害拠点病院として、全国の赤十字施設から集結した207班1600名の救護班と連携し、益城町の各避難所での救護活動を展開しました。

その他、国内だけでなく海外での災害時にも救護員を派遣しており、現地の復興支援に貢献しています。フィリピン台風災害における被災者救援事業においても4人の事務職員を派遣し、各国の赤十字社や現地の方々との協力体制を敷き、被災地の復興活動を行いました。

災害時における事務職員の管理要員や技術要員としての活動は、熊本日赤において救護活動を行ううえで重要な部分を占めており、私たちは救護活動の更なる飛躍を目指しています。



全国赤十字の救護班と調整を行う。  
(熊本地震)



被災者の対応にあたる。  
(東日本大震災)



管理業務の傍らで薬剤師の補助を行う。  
(バングラデシュ難民救援事業)

## 次世代を担う人材を育てる

「医療の知識や医療事務の資格が必要ですか。」とよく聞かれます。病院の事務職員は入社前から医療に関する知識を持っているというイメージが強いようですが、事務系職員として入社した職員の大部分は資格などは持っていません。入社後、日々の業務の中で基礎から学び、病院運営や医療に対する知識を深めていきます。

また、当院の事務系総合職に必要なのは医療の知識ではありません。医療分野以外でのスタンダードな知識や、グローバルな視野も必要不可欠です。さらに、チーム医療を成立させるため、様々な職種をまとめることも事務職としての重要な役割であり、事務系職員は様々な知識や能力が求められる立場となります。これらの能力を高めるため、当院では業務を通しての教育だけでなく、Off-JTとして1年目から3年目の職員を対象とした若手職員研修から係長以上を対象の管理職研修まで、経験年数に応じた様々な階層別研修等を行っています。

同世代の職員と同じ課題に取り組むことは、個々のレベルアップに加え、チームワークの向上にも繋がるため、教育研修だけでなく職員同士のコミュニケーションツールとしても良い効果を生み出しています。



1～3年目の職員を対象に1泊2日で集合研修を開催しました。  
座学やグループワークを中心とした研修会で、普段の業務では得られない貴重な学びの場となりました。